

介護ロボット等活用推進事業

令和4年度導入効果検証事業
事業実施報告書

移乗支援機器（装着）

「腰部サポートウェア rakunie（ラクニエ）」

令和5年3月



社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ

1. 主旨

株式会社モリタホールディングス「腰部サポートウェア rakunie（ラクニエ）」（以下ラクニエという）を、社会福祉法人九十九会特別養護老人ホームユートピアつくもに導入し、職員の起床・臥床・トイレ誘導などの様々な場面での身体的・精神的負担の軽減の効果を検証した。結果、おむつ交換やフットサポートの上げ下げ時などの前かがみ姿勢や夜勤明け・就業後の腰部の負担軽減につながった。また新しい取り組みには理解を示しにくかった職員も装着効果を感じ、積極的な使用につながった。

2. 課題

- ・職員平均年齢が 42.8 才、平均勤続年数 10 年 11 か月、介護職員の年齢層は 50-60 代が中心で、経験年数の長い職員の体調不安を理由にした離職が後を絶たない。
- ・慣れた介助方法からの脱却が図れず、新しい取り組みに消極的で、環境改善に向けた取り組みがうまくいっていない。

3. 実施方法

介護職員の心身への負担に影響する項目を調査したところ心身負担の大きな要因が「移乗介助における腰痛」であったため、移乗介助での腰部の負担軽減効果を見込める装着型の移乗介助ロボットのラクニエを選定した。

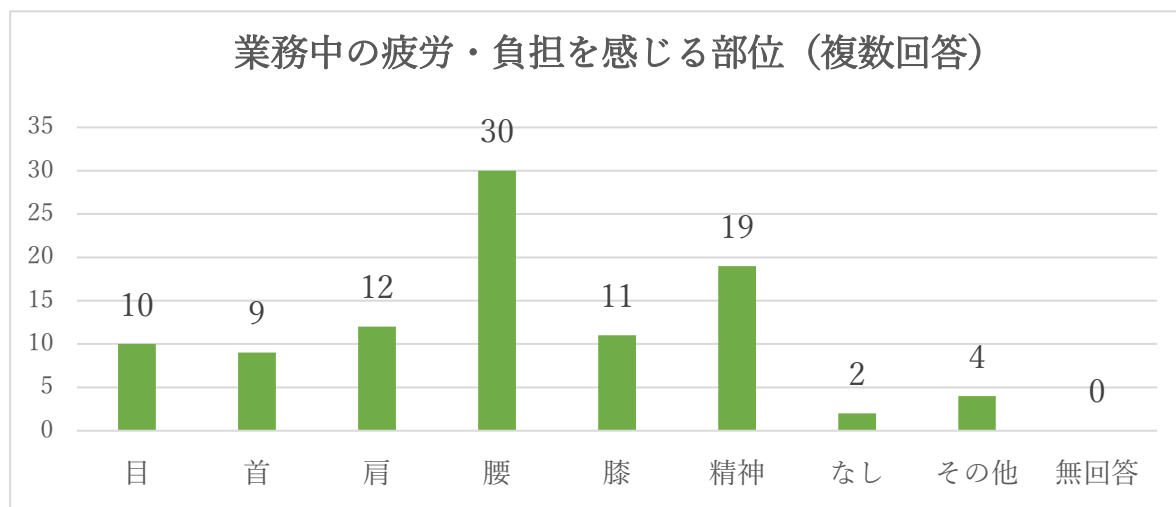
今回の効果検証方法としては、導入前後の紙面によるアンケート調査行い、腰部サポートウェアのラクニエ導入による心身負担に関する効果と課題を検証した。

<スケジュール>

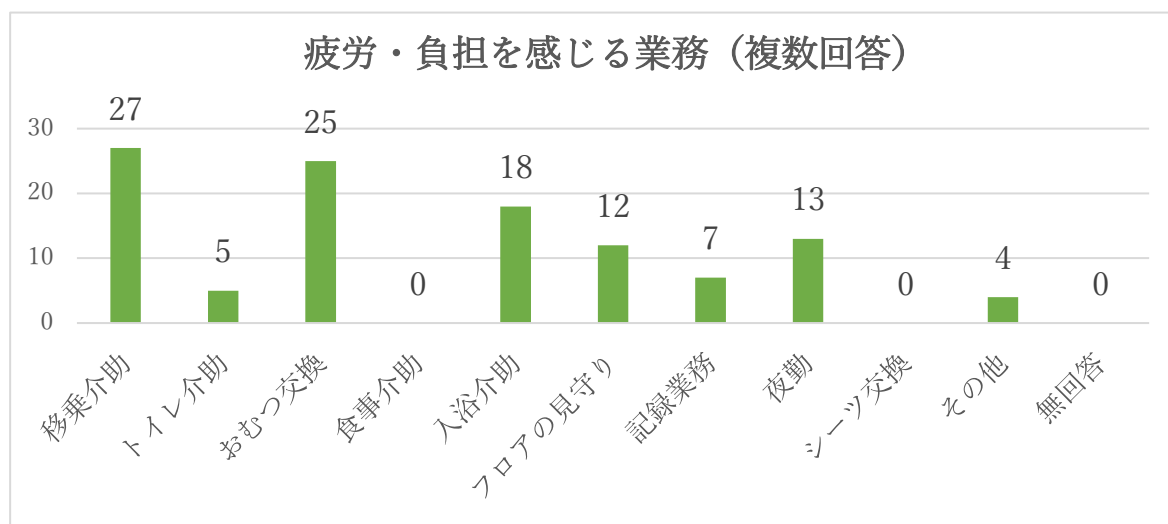
令和 4 年 6 月 30 日	課題整理の打ち合わせ
令和 4 年 7 月 12～20 日	介護ロボット導入前 実態調査実施(アンケート形式)
令和 4 年 11 月 18 日	ラクニエのデモ（2 週間）
令和 4 年 12 月 8 日	介護職員腰痛アンケート実施
令和 5 年 1 月 20 日	導入効果検証協力事業所 意見交換会参加
令和 5 年 1 月末	ラクニエ導入（3 週間）
令和 5 年 2 月 21～24 日	導入後アンケート調査実施
令和 5 年 3 月 9 日	導入後ワークショップ
令和 5 年 3 月 15 日	効果検証報告

4. 結果

(1) 介護ロボット導入前実態調査アンケート結果 (n = 38)



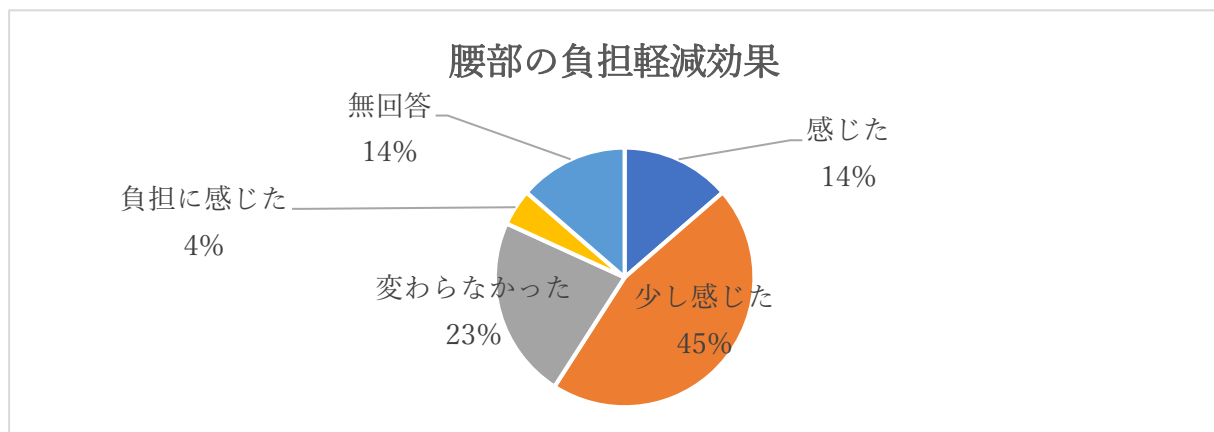
- 腰と精神の疲労・負担を感じている者が多い
- 精神：複数の入居者の見守り介助や同時に行なう記録業務など



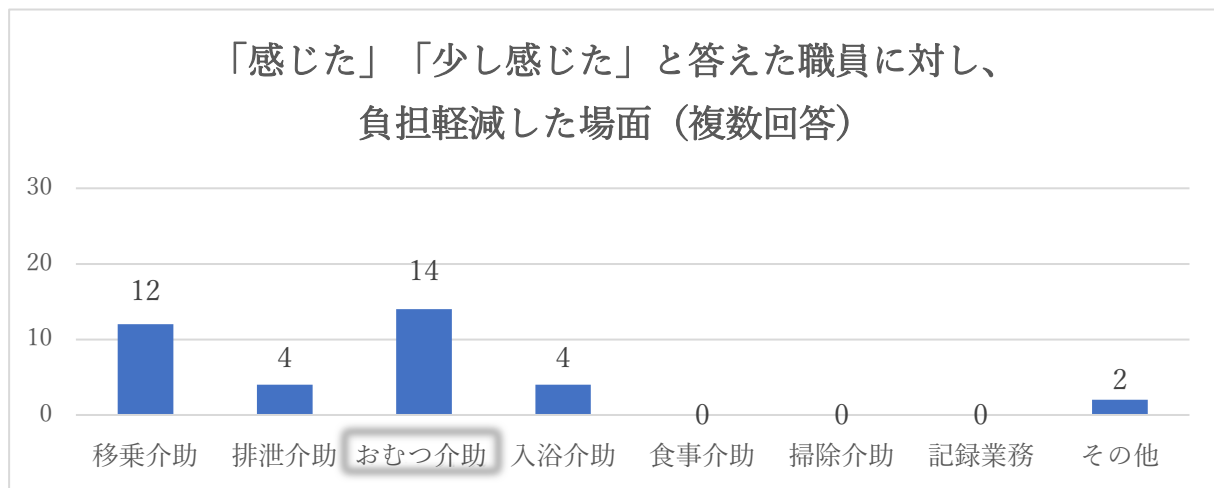
- 移乗介助・おむつ交換での疲労負担が多い。
- 腰の負担を感じる原因は（介助量によるもの・介助の回数・おむつ交換など同一作業の持続時間・夜勤など勤務時間帯・人員不足による単独業務等）によるものが多い。

(2) 導入後アンケート結果 (n = 32)

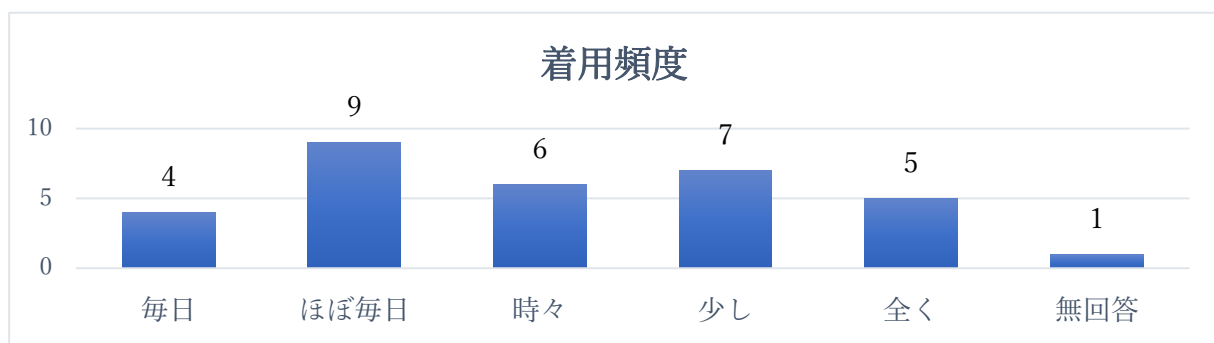
妊娠中・膝を痛めている職員等を除いた。



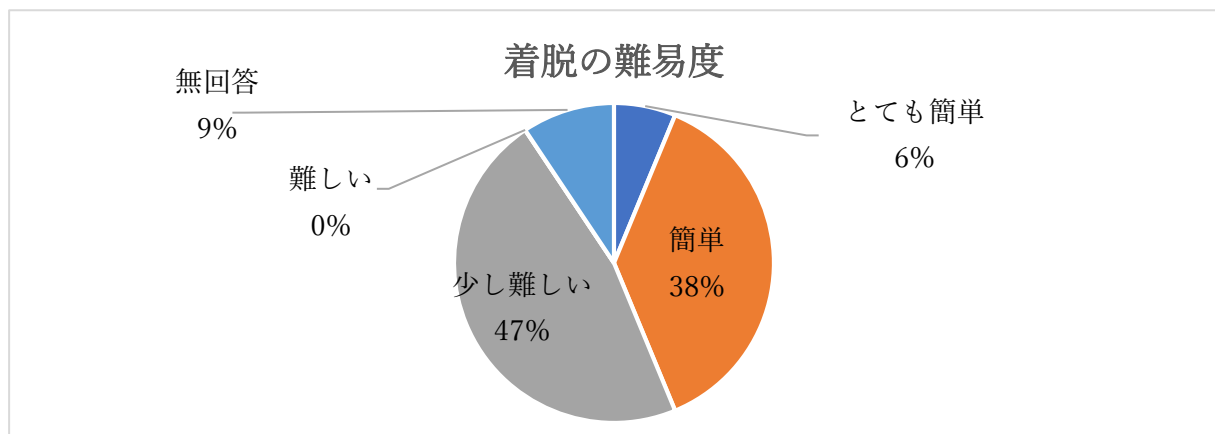
- 59%が腰部の負担軽減効果を感じた。



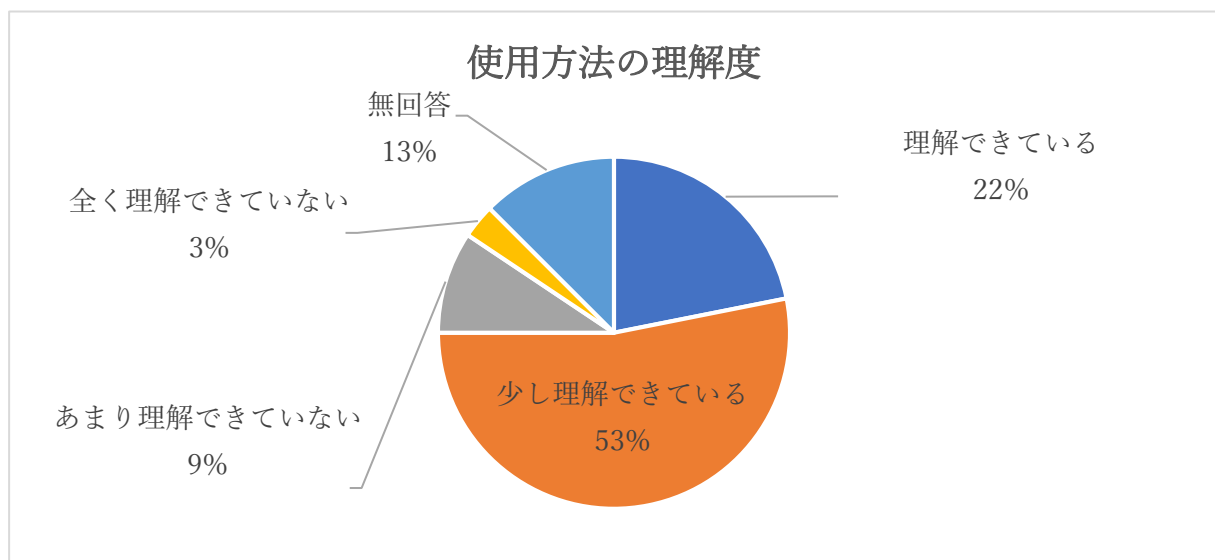
負担軽減場面は移乗介助・おむつ介助場面が多かった。



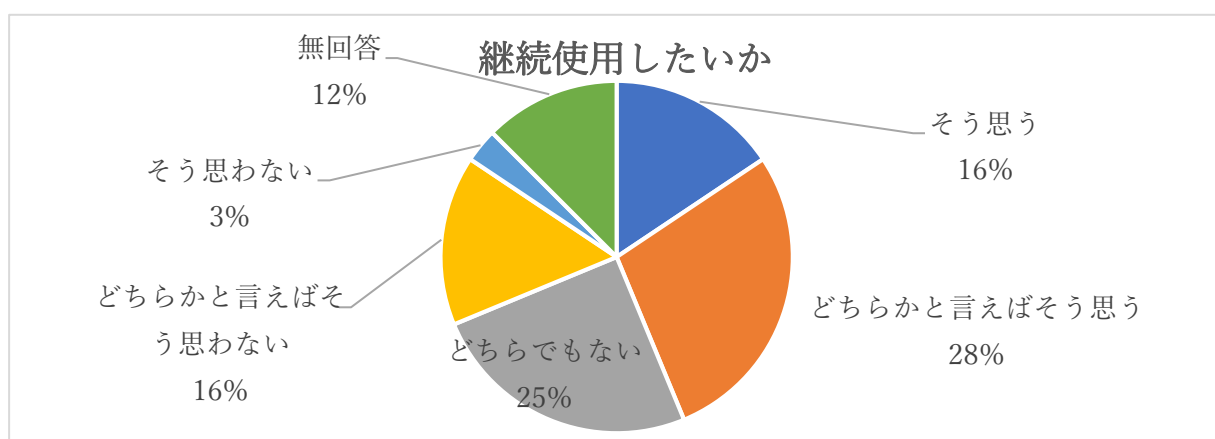
- ほぼ毎日着用している者が多かった。
- 着用しない理由として膝サポーター・腰のコルセットを着用していることがあった。
- 着用をためらう女性職員には装着で胸など体のラインが強調されることを気にするコメントがあった。



- 難しいと答えた職員においては「マジックテープが多く絡んでしまうから」と意見があった。
- 調整して体になじむまでは人によっては慣れる期間も必要であった。



- 使用方法の定着に 3 名のラクニエ対応担当職員より一週目は着用方法の理解のフォローを行った。
- 8 割近い職員が使用方法は理解できる、少し理解できていると答えた。



(3) ワークショップヒアリング

介護職員の負担軽減について

- ・ 59%の職員が腰部の負担軽減を感じることができた
 - ・ 効果を感じた介助場面はおむつ交換、移乗介助時などの前かがみ姿勢
 - ・ ベッドから起き上がりの介助で介助者自身の上体を起こす時
 - ・ 夜勤明け・就業後の疲労感
- などの身体的な負担軽減が挙げられた。

職場の環境改善などについて

- ・ 体調面に不安のあるベテラン職員も装着することで身体負担が軽減し、改善に向けた新しい取り組みを一緒に行うことができた。

今後の課題

- ・ 職員の精神的な負担軽減や利用者の負担軽減については導入効果を測る時間が十分確保できなかった。
- ・ ラクニエ装着により膝の痛みを訴える職員がいた。腰部への負担を肩や膝で補っているため、強く締めすぎると膝への負担が増加する可能性がある。膝テープや、腰テープ等を緩めて対応する。
- ・ 今後、使用を継続し、客観的な腰部負担の変化を確認していく。あわせてラクニエ以外の手段も検討していくことで更なる移乗介助の負担軽減の効果を確認する。

(4) 使用場面の様子



5. まとめ

株式会社モリタホールディングス「腰部サポートウェア rakunie（ラクニエ）」は介助者が装着することにより、背面に沿って配置された弾性材の張力で介助者の前屈に伴う腰部への負担を軽減できる構造である。課題整理のための実態調査アンケート実施にて、業務中の負担は腰部にかかり、特におむつ介助や移乗介助場面で強く感じていた。環境改善に向けた新しい取り組みとして、装着の容易さ、軽量であるなど取り扱いやすい特徴のあるラクニエを導入した。事業所内のコロナ感染対策対応の影響もあったため、3週間に限って介護職員にラクニエの着用機会を設け、アンケート調査にて効果を検証した。

その結果、59%の職員が腰部への負担の軽減を感じることができた。ベッド上でのおむつ交換や移乗介助の場面で腰に負担のかかる前かがみ姿勢や中腰へのサポートができたためと考えられる。また疲労が蓄積されやすい夜勤明けや長時間の同一作業後において負担軽減を認め、通日の装着しやすさが効果につながったと考えられる。体調面に不安のあるベテラン職員にも活用され、長く働きやすい環境改善に向けて一緒に取り組むことができ、離職防止対策の一つとなった。

ラクニエ使用で膝の痛みを訴える職員がいた。正しく装着・使用することで対策できる面があり、使用方法を正しく理解できるようになるまで、使用前の指導や使用後のフォロー体制が不可欠である。今後は継続使用期間の延長に伴う介護職員の精神的な変化や利用者の変化、客観的な腰部負担の変化やラクニエ以外の手段の検討なども行っていくことで更なる効果にむけて進められるとよいと考える。

資料

- ① 事業計画書（ユートピアつくも作成分）
- ② 評価用紙（導入前・導入後アンケート）
- ③ ワークショップ資料

その他

令和4年度 介護ロボット導入効果検証協力事業所募集要項

ユートピアつくも 介護ロボット導入前アンケート

職場環境が少しでも良くなる為のアンケートです。

無記名で大丈夫です。締め切りは7月20日（水）です。

アンケートの集計データは後日、公開させていただきます。

原本は公開いたしませんので、素直な気持ちをお書きください。

お忙しい中、恐縮ですがご協力をお願いします。

ご不明な点は3 階田中、2 階伊藤までお願いします。

★アンケートスタート★

■あなたのことを教えてください

[illegible]

■労働環境について教えてください

1カ月の残業時間	☐ ない ☐ 5時間未満 ☐ 5時間～10時間 ☐ 10時間以上
夜勤帯での仮眠や休憩	☐ 十分とれる ☐ まあまあとれる ☐ 少しとれる ☐ とれない ☐ 夜勤なし
仕事の満足度	☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満足 ☐ 不満足

※裏面に続きます

■労働負担・疲労について教えてください

業務での疲労・負担はどのような状況ですか	☐ とても疲労しやすい・負担を感じる ☐ 疲労・負担は感じるが休めば解消する ☐ 依然と比べて、疲労・負担を感じやすくなった ☐ 問題を感じない
業務中の疲労・負担を感じる場所（複数回答可）	☐ 目 ☐ 首 ☐ 肩 ☐ 腰 ☐ 膝 ☐ 精神 ☐ なし ☐ その他（ ）
疲労・負担を感じる業務（複数回答可）	☐ 移乗介助 ☐ トイレ介助 ☐ おむつ交換 ☐ 食事介助 ☐ 入浴介助 ☐ フロアの見守り ☐ 記録業務 ☐ 夜勤 ☐ シーツ交換 ☐ その他（ ）
具体的にどのような負担ですか？	
業務改善の必要性を感じますか？	☐ とてもある ☐ ややある ☐ あまりない ☐ ない
具体的にどのような業務改善が必要だと思いますか？	

■介護ロボットについてお考えを教えてください

興味・関心	☐ とてもある ☐ ややある ☐ あまりない ☐ ない
介護ロボットに対する期待感	☐ とても期待している ☐ やや期待している ☐ あまり期待していない ☐ 全く期待していない
介護ロボットに期待する効果	☐ 職員の負担軽減 ☐ 介護技術の均一化 ☐ 業務の効率化 ☐ 利用者様の負担軽減 ☐ 利用者様のADL維持・向上 ☐ 利用者様のQOL向上 ☐ その他（ ）
興味のある介護ロボット （複数回答可） 別紙カタログ参照	☐ 移乗支援 ☐ 移動支援 ☐ 見守り支援 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援 ☐ その他（ ）
前の質問で選んだ介護ロボットを使用するとどのような改善が期待できると思いますか	
逆に不安とかデメリットはあると思いますか？考えを聞かせてください	

ご協力ありがとうございました。

ユートピアつくも ロボット導入事業

導入後アンケート

氏名： _____

①期間中の使用頻度を教えてください。(出勤日数をおおよそ 20 日として)

- 1.毎日使った 2.ほぼ毎日使った(15 日～19 日) 3.時々使った(5 日～15 日)
4.少し使った(1～4 日) 5.全く使わなかった(0 日)

②着脱は容易でしたか。

- 1.とても簡単だった 2.簡単だった 3.少し難しかった 3.難しかった

③腰部への負担は軽減したと感じましたか。

- 1.感じた 2.少し感じた 3.変わらなかった 4.負担に感じた

➡(1.2.を選択した方へ)特にどのような場面で負担軽減を実感しましたか。

- 1.移乗介助 2.排泄介助 3.オムツ介助 4.入浴介助
5.食事介助 6.掃除業務 7.記録業務 8.その他()

➡(4.を選択した方へ)どのような負担を感じましたか。

④今後も継続して使用したいと思いますか

- 1.そう思う 2.どちらかと言えばそう思う 3.どちらでもない
4.どちらかと言えばそう思わない 5.そう思わない

⑤ラクニエの気になった点や改善すべき点がございましたらご記入ください。

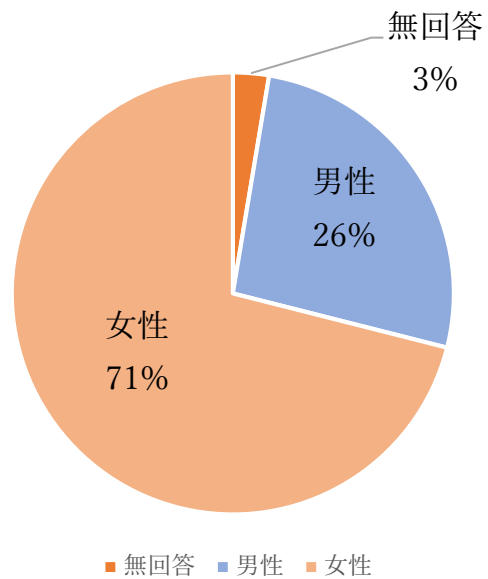
令和4年介護ロボット導入効果検証事業

導入前実態調査アンケート 集計結果

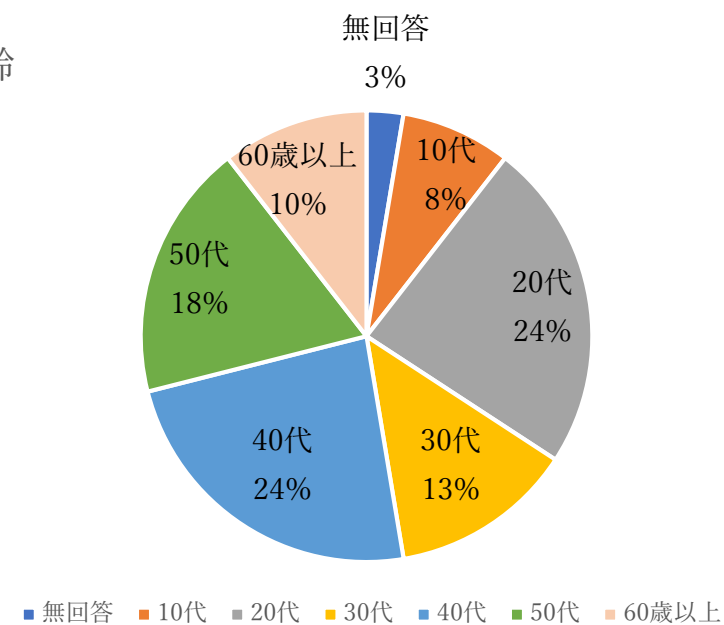
対象：ユートピアつくも 介護職員 38 名

期間：令和5年7月12日～令和5年7月20日

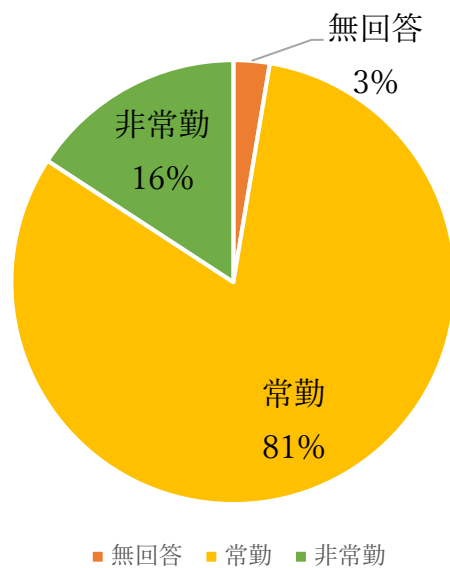
性別



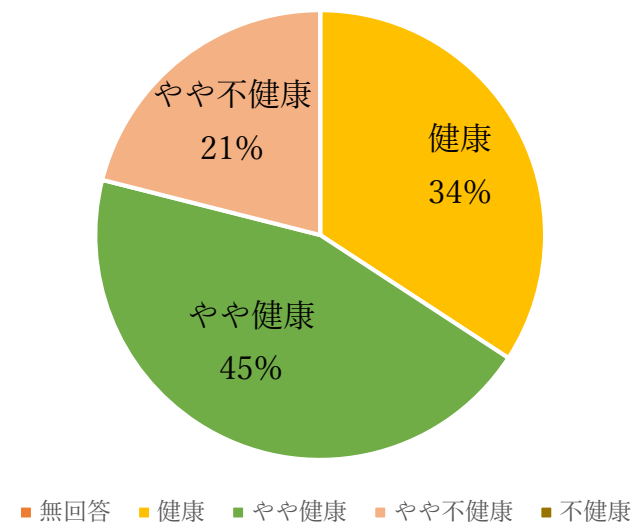
年齢



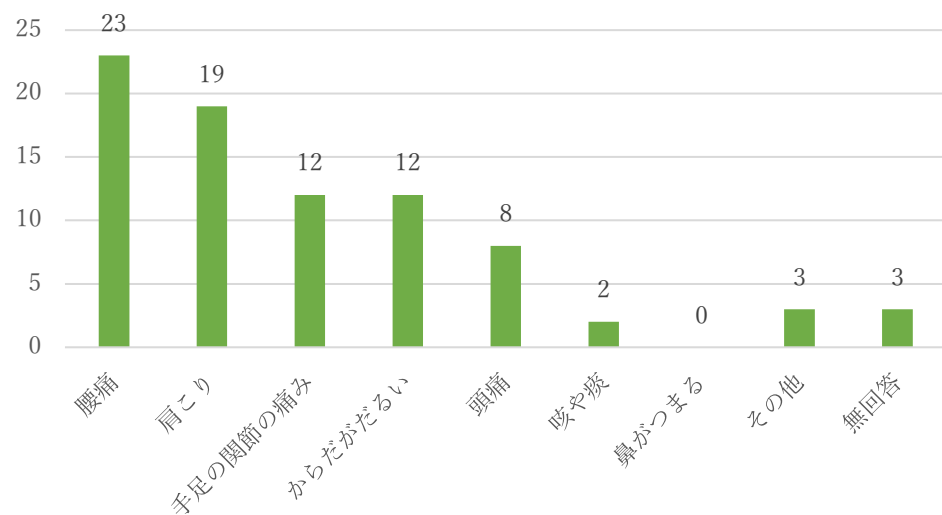
勤務形態



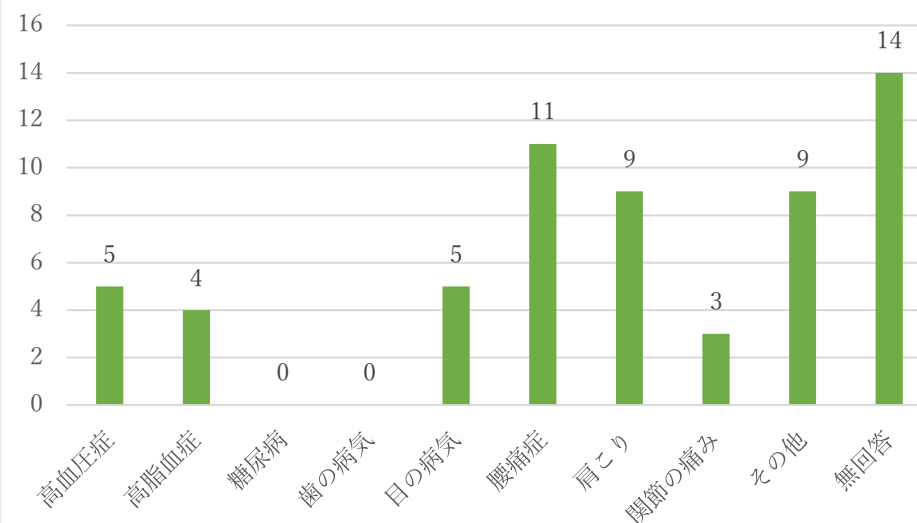
健康意識



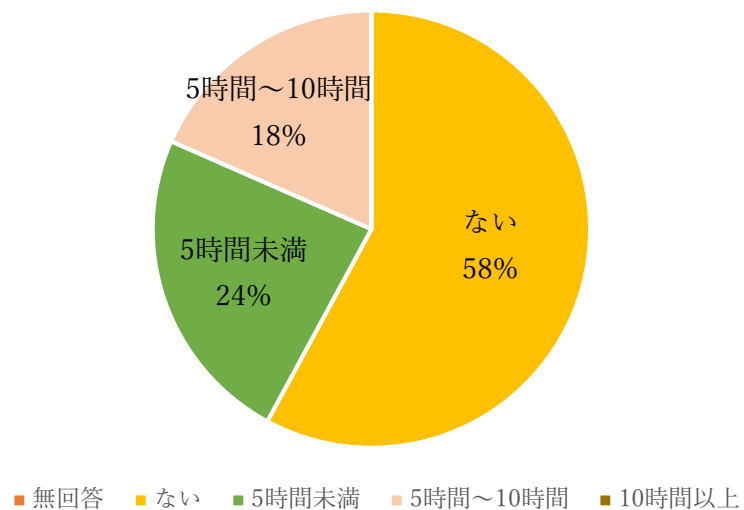
自覚症状



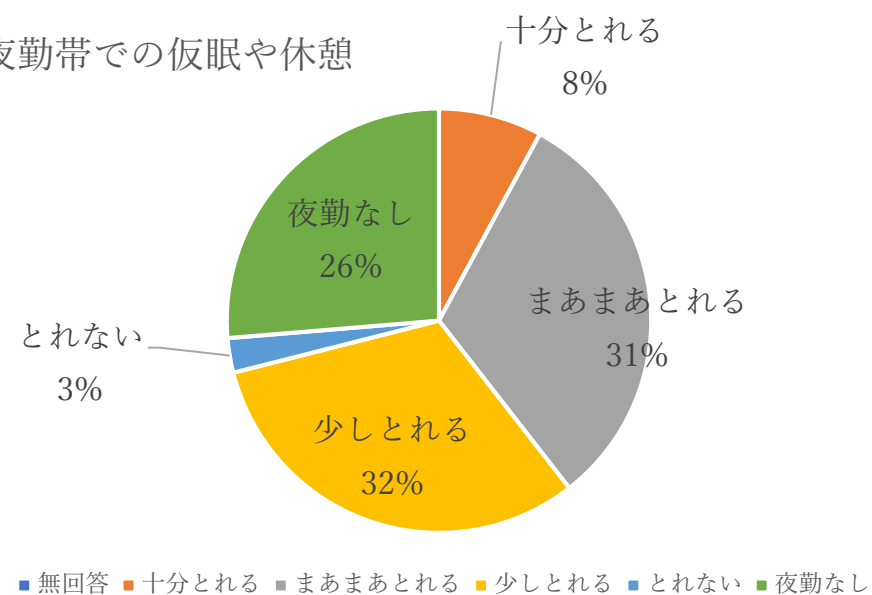
持病



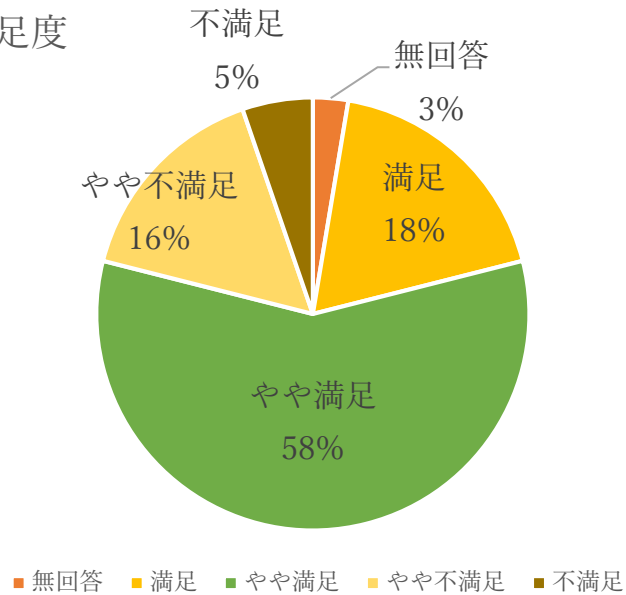
1ヶ月の残業時間



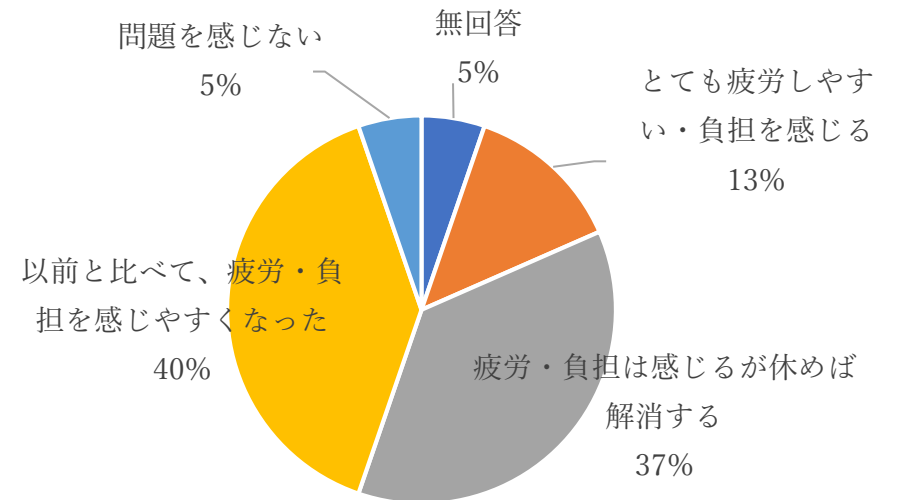
夜勤帯での仮眠や休憩



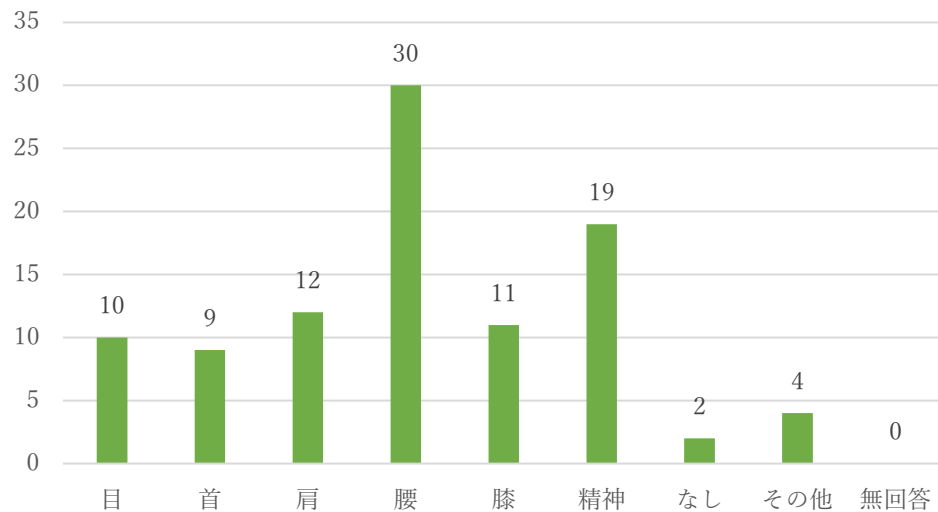
仕事の満足度



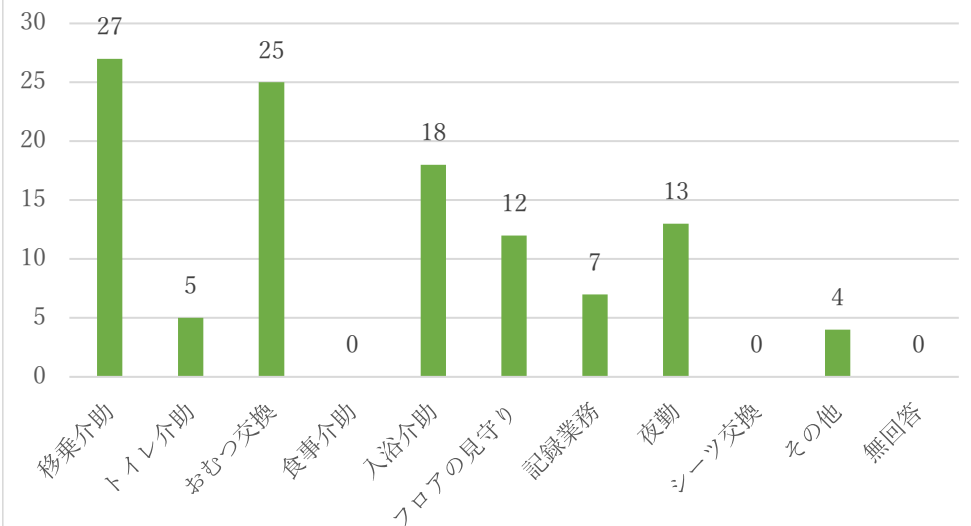
業務での疲労・負担はどのような状況ですか



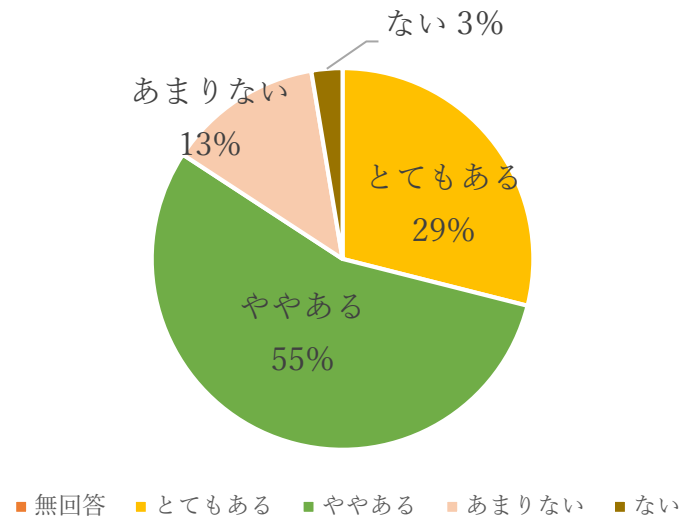
業務中の疲労・負担を感じる場所



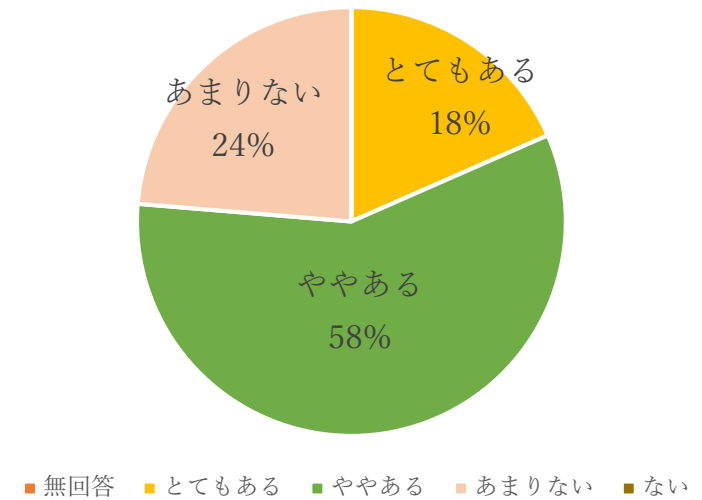
疲労・負担を感じる業務



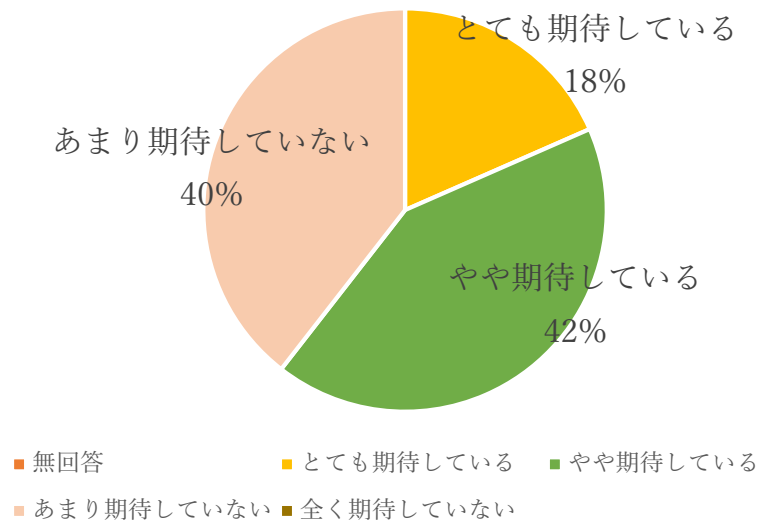
業務改善の必要性を感じますか？



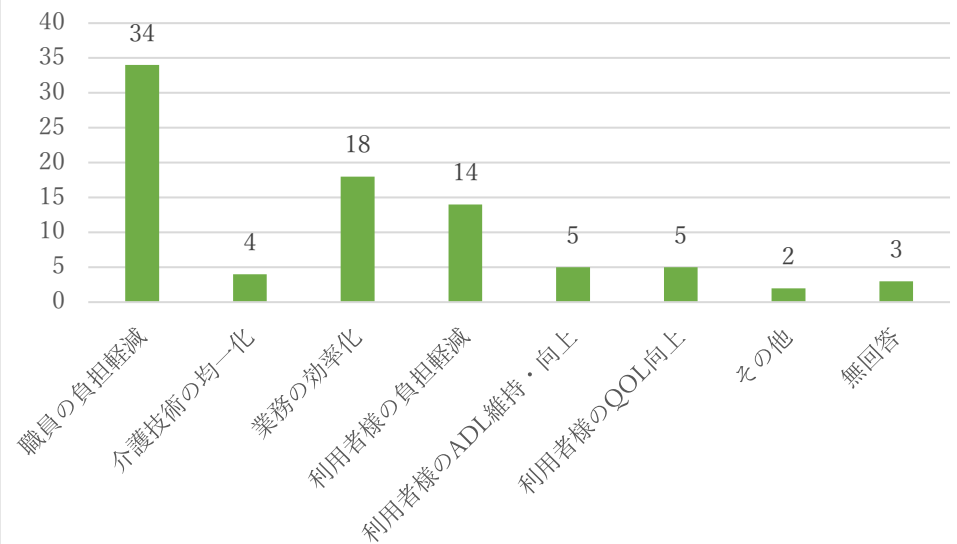
介護ロボットに対する興味・関心



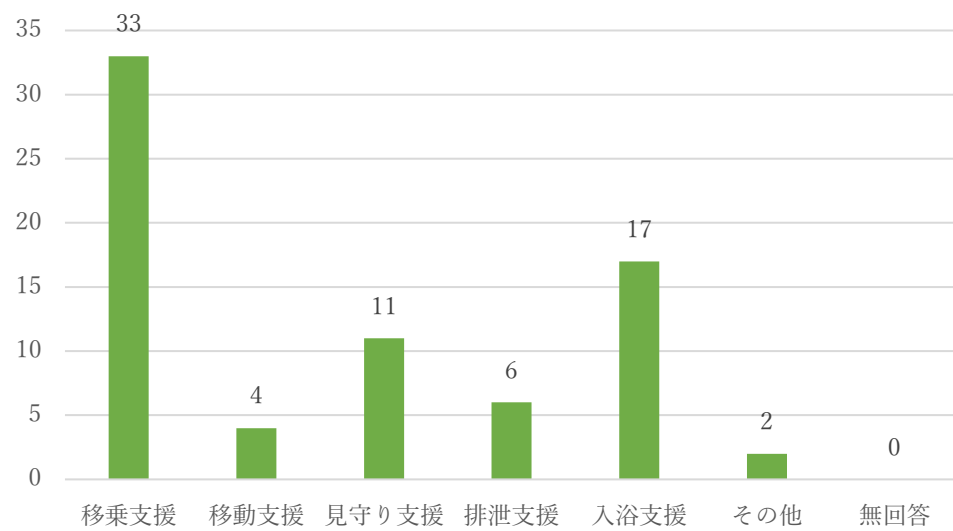
介護ロボットに対する期待感



介護ロボットに期待する効果



興味のある介護ロボット



【具体的にどのような負担ですか？】

腰痛

利用者の重度化

臨機応変に動きのとれる職員が減っている

介助による腰への負担

各介護観の違いによる精神的負担

入所者の重度化に伴う介護量増による身体的負担

人員不足による仕事量増による負担

フロアの見守りを行いながら記録を入力する

フロアに自分一人体制の時コールがあり対応、不穏者の見守り等がある為、精神的ストレスが大きい。大柄の方の移乗が難しい。

介助を積み重なりと徐々に負担を感じます。

他職員の業務が完璧でない時のフォロー時、気持ちのもっていき場に困る。自分の業務が遅れたり、できなかったりすることもある。(出来ないことのフォローは OK できるのにやってない事のフォローが負担)

3F フロアに関してはパートさんも足りない。遅番 C が無い状態のため常に時間に追われている。

体格のよい入所者で下肢筋力の弱い、もしくは無い人が増えた為、全ての介助が腰にきます。

記録は大切な事なので精神的な負担

慢性疲労の為疲れが積み重なっている。

どの業務に対しても職員不足で2倍働いている感じ。

オムツ対応の入所様が増えたが、職員の数が足りていないように思います。特に入浴介助が時間と職員がいらない為十分な入浴ができていないのが良くないと思います。(シャワー浴にしたりしてなんとかしていますが)

身体的な負担はそこまでのものはないですが、複数の利用者様と関わる中で職員に対し攻撃的な発言をされる方とのコミュニケーションがうまく計れず最近負担を感じます。業務の回りについても人の数が足りないことが明確な原因ですが、心の疲労を感じてしまいます。

大柄な人、体重の重い方を介助するとき、腰・背中・膝に必要以上の負担がかかり痛みが出る。

フロアの見守りをしつつコール対応をしなければいけなかったり、複数の業務を同時にこなさなければいけない状況が負担です。

夜勤中の移乗介助(朝)は疲れがたまっている状態で行うので、体を痛めやすい。昼食後の臥床介助は、早番が 12:15～休憩に入るので、12:15 以降遅番が 1 人で臥床している。昼食が遅くなるほど遅番の負担が増えている。1 人で 20 人程度を 30 分以内で臥床させることも多い。これは部屋へ誘導する時間も含めて 1 人 1 分程度で臥床し続けるという相当な負担！！

オムツ交換等で腰が痛くなる。

業務中常に時間に追われている。

フロアの見守りは常に気がはる。

以前より入所者の方が重度(要介護度が)になってきているので、特に夜勤帯での疲労度がハンパない。

自分より背の高い方の移乗介助時、覆いかぶさる様な感じがする。

中腰の介助が多い。

入浴介助は裸なのでどうしても力が入ってしまう。

徘徊、立ち上がりのある方の見守り（何人もいると大変）。

入浴介助のとき、皆んな頑張っているが、介助者が少ない時は、どうしても機械的になりがちで余裕がない。

移乗時二人介助が必要な方でも、周囲に職員がいないと、一人で介助することがほとんどです。ボディメカニクスを使って介助することはもちろんですが、車椅子のフットレスト等にあたってしまうと、表皮剥離をしてしまうのではないかと精神的なストレスを感じています。

オムツ交換者が多く、夜勤帯で腰にふたんがあることがある。

大きい方や重い方が多く、移乗やオムツ交換時に負担を感じている。

徘徊する方が複数いる時にトイレへ行きたい方も重なるとフロアの見守りが手薄になる上に精神的にも負担に感じる。時間に追われ、入所者との関わり方や担当入所者へ使用できる時間が少ない。

中腰で介助する時間が長くなるとどうしても腰が痛くなりやすいです。移乗や入浴介助などでは「ケガをさせないように」と神経をととても遣うので。終わった後に「腰が痛いな～」となりやすいですかね。夜勤明けが特にへろへろです。

オムツ交換 同じ姿勢で腰に負担。

移乗介助 自分より身長があり体格が良いと腰、足に負担。

入浴介助 便が出た時、体をかかえて洗身するので腰、足に負担。

移乗介助では手首への負担が、オムツ交換では腰に負担がかかっていると思います。

オムツ交換は特に前傾姿勢の時間が多く、腰に負担がかかる。

ベッドの高さが変えれない物もあるため。

身長のある人、体重の重い人を動かすのが負担。又、拘縮が強い人や介護抵抗のある人の介護も大変。協力動作が得られないとなお負担。不穏者対応も時間を要するため他に影響する。弄便もうんざりする。

前かがみの動作が多いと特に腰に重さや痛みを感じる。

二人介助の一人で行わないといけない場面がある。

夜勤一人見守りの際、トイレが続くと精神的にくる。

男子＝重い人を行うという場面(入浴や移乗)があり、一人ならいいが何人も続くことがあり負担。

フロアでの業務の中でのメンタル的部分

体重が重く、全介助の方の移乗介助時の腰への負担が大きい。

オムツ交換時や臥床介助時の平行移動時の腰への負担が大きい。

重い人が自分の力が心配して負担になります。

【具体的にどのような業務改善が必要だと思いますか？】

時間の確保 多くの人材が必要

人材を増やすことが一番必要

入所者の重症化に伴う時間の配分や変更 業務改善も必要かもしれないが、人間相手である為一人一人の気づきや臨機応変さも必要な気がする。

全ての業務を根本的に改善する必要がある。勤務時間の変更含め、要介護3以上の方しか入所できないので一人一人に掛かる時間が長く、現在の人員では対応困難なこともある。精神的に余裕をもって業務にあたりたい。 マニュアルのみの行動が果たして正確なのか？自分で動ける力も必要。 入所者が気持ちよく過ごして頂くにはどうしたらよいか？出来ないと決めつけるのではなく出来るようにはどうすればよいか？考えてみてはどうでしょう。

自身より体重がおもい方だと移乗の際身体の負担がある為スライディングボードがあると少し楽になると思います。

職員の意識改革

時間の配分。勤務時間。浴時の移乗(足が立たない体の大きい方)

入浴が毎回人選をしなくてはいけないこと。

職員の人数の増、13 時のオムツ交換ができないのであれば何か施設全体で考えていかなければいけない。

今の職員で行える範囲でのその日その日のフロアの回し方や AB の業務の改善。事務員の積極的な協力(下もお忙しい中ではありますが…)

人員を増やす。

共用部分(デイルームとか)が入所者数に対して非常にせまい。 311R が移乗介助しにくいぐらいにせまい。 全介助で体重の重い入所者様が多い。

必要のない業務のカット。(重複しているものが多数あり) 食事介助に事務所職員の方が来てくれるかどうかで、その後の業務が時間内に終わるかどうかが決まっているのが現状。事務所職員(と NS 合わせて)3 人は食事介助のヘルプが欲しい(片付け、洗い物、床のモップがけ、おやつ用意など)。介護士以外でも行える業務を手伝って頂けたら、フロアの空気が変わる→良いケアが行える。

業務時間の見直し(お風呂や食事等の時間)

オムツ交換、移乗介助等二人で介助して危険回避したい!

まずは人員不足を解消してほしい。

職員の人数が少ないと感じる。

入浴専門のパートを雇用したらと思う。

人員が不足しており、入浴が週 1 回となってしまうことがある。 オムツ交換や入浴介助が長引き時間内に終了しない(オムツ交換は以前より早く始めているが終わらない)。それにより、16 時に業務が終了するのに終われず、超勤もつけていない。休憩時間が取れない。

最近思うことですが、新しく部屋を増設した事で、入所者一人一人に対しての介護負担が増大していると思います。今までは仕事が一段落し、少し空いた時間で一人一人と会話する時間がありましたが、今はそれも無く、例えば午前中入浴介助後フロアに戻ると、もう昼食が配られていて、すぐ食事介助です。一事が万事で、一つの仕事が終わると次の仕事へ、すぐ、すぐ、すぐ……。毎日時間に追われています。もっと魅力のあるつくもにするためには、人材確保が必要ですが、先づ看護職、事務職と協力し合うことです。そして「つくもで良かった」と言ってくださる家族が増えることを願っています。

もう少し効率よく業務を振り分けられるとよいかなと思う。

職員が少ないのがつらいです。安全面を考えると週2回の入浴が週1回になってしまうのは仕方がないと思うのですが、夏なので入浴させてあげたいな～と感じます…。

人手不足というのもありますが、その分入浴もフロアーも身体的負担が大きいと思う。なので身体的負担が軽減するような改善。あと、コミュニケーションがとりやすくなれば。と（改善して）

自分自身の手技の問題もあるかと思いますが、スライディングボードなど(他製品)、負担がかかりそうな場面で実用的であれば使用するのも手かと思いました。

男性用にもう少し長いベッドを入れる。(身長が高い人用) ベッドの高さを変えられるもの。 機能式車イス。

入浴チェアーがガタがきているので欲しい。 まだ古いベッドの人がいるので電動ベッドが欲しい。 朝食を栄養ドリンク、ヨーグルトなどにして全員離床をやめる。 入浴介助をおこなう介護職員を確保。

残業、決まった時間内に業務が終わらない為、人材確保、事務所の手助けが必要。おフロが週一しか入れない事多々あり。 オムツ交換が 13 時無いのが当たり前になってきている。 上記3点においては新しい遅番の時間帯を増やしたり、他職種の手助けが必要かと。

全般的に

人員不足

人が増えるとよい。

【前の質問で選んだ介護ロボットを使用すると

どのような改善が期待できまると思いますか?】

誘導のタイミングが個々にわかるので利用者の行きたいタイミングでトイレ排泄ができる。

負担軽減、業務の効率化

職員の身体的負担の軽減

移乗支援

⇒大柄体型の入所者が増加しているので、移乗の際体への負担軽減につながれば良いかと。

見守り支援

⇒ほぼすべての人に見守りが必要だと思うので一部でも職員の負担軽減になるといいですが。

人件費の削減

ロボットが自分達の負担部分を担ってくれることによって時間ができ、今までできなかったご利用者様へのサービスができるようになる（サービス向上）

腰を痛める職員が減る⇒他の業務の効率アップ 仕事を続けやすくなる。

人手負担の軽減、また腰痛や疲労などの肉体的負担がへるかと思います。

2人介助を1人介助にできると良いと思います。

女性などの力の負担が介護ロボットでサポートできることはいいことだと思います。

職員の身体的負担の改善。

利用者様への力のみで移乗を行う介助をしてしまう時があるため(男性相手や体重の重い方)、そういった方への負担軽減。

体への負担軽減につながる。

画一的なトイレ誘導で一斉に行うのではなく、一人一人の排泄状況に合わせることで、ゆとりを持てそうな気がする。

特浴入浴時の移乗が楽にかつ安全に行えるといいなと思います。それを導入することによって、業務をこなすスピードが低下するなら正直いりませんけど。

移乗：身体的負担の軽減（マッスルスーツ等）

見守り：精神的負担の軽減（認知症利用者様への返答などの対応をしてくれるロボット）

入浴：利用者の QOL 向上（浴室で使える音楽や動画を流すロボット）

身体負担がへる。

安楽な介護ができるかもしれない。

あまり期待していません

正直あまり想像できません。

職員の負担軽減

重さのある利用者を楽に移乗できる。

体重のある方、背の高い方の移乗が安全にできる。

移乗に伴う身体的な負担を軽減。

身体的負担が減らせる。

夜勤で時間毎の体位交換は一人で数十人行わなければならない、特に体重が重たい入所者等は腰に負担がきてしまいます。また、時間がかかってしまいます。自動的に体位を変換するベッドがあれば、夜勤帯での負担も軽く済むと考えます。また、褥瘡の軽減にもなると思います。

職員の負担軽減となり、業務の効率化を図れるとよいかなと思う。

移乗時や入浴介助時、大きい方や重たい方の介助が楽になり職員の負担が軽減されると良い。

移乗や介助が楽になり、時間にゆとりが持てるものだとうれしい。

不穏者が穏やかになるものもゆとりに繋がるなら使用したい。

移乗支援でいうと、スマートスーツやラクエニが腰の負担を軽減してくれそうな気がします。装着するのが大変そうなものと面倒くさくなりそうです。

QOL：1日何もしない時もあるので、コミュニケーションなど刺激があればいいと思った。「女の子ロボット・男の子ロボット」「グローヴェックス」「ロボホン」など。

見守り：死角になる所が見守りしにくいので、死角になっても対応出来ればいいと思いました。

直接介助：マッスルスーツ お互い負担がかからないのであれば良いと思った。
(体への負担、ケガのリスク軽減)

職員の身体的な負担が主に改善されると思います。

体の大きい人や、体重がおもい人など、力に自信がない人でもロボットなら人手不足のなかでも1人でできるかな。

現在のつくもでは、認知症の周辺症状で対応が大変、というより全介助の人や重い人、拘縮や抵抗で介護に人員や時間を要することが大変だと思います。体位交換を自動でやってくれたら、褥瘡予防や介護負担の軽減になります。端座位になるまでをロボットが助けてくれたらしんどさが半減するかもしれません。

職員1人1人の身体的負担の軽減が考えられる。

自分の場合は特に腰痛。

職員の体への負担軽減。

移乗介助の負担の軽減

介助者の肉体的負担の軽減と精神的負担の軽減。

【逆に不安やデメリットはあると思いますか？

考えを聞かせてください】

移乗支援ロボットは見た目がちょっとかなと思われる。

重度認知症や重度身体状況の方には適応出来るのか？

使用時の手間は少ないか？

万が一事故が起きた時の責任は？

入所者様の反応が不安

どのようなロボットか不明ですが取り扱いが簡単でスピーディであることが原則。すべての年齢層の職員が負担と感ずることなく、介護ロボットを扱える事。ロボット導入＝負担軽減に果たして成るかどう、介護の仕事とは何かを考えると、ほかにも考えることが沢山ありますので…。

利用者様にとってはロボットなどがあると、身近なものではないので安心感など得られないかなと思いました。様々なロボットがあると思うので適した物を使用できたら嬉しいです。

負担軽減を“楽”ととらえてしまう職員がいないか不安

金額はやはり高いので、他の経費の節約がせまられると思う。

急な不具合や故障があると困りそう。

利用者はロボットに対しどう思うのか、またロボットになれば、故障したときの対応など。

使うまでの時間、メンテナンス等余分な時間がかかる。

導入しても使いこなせるのか心配。

高額なものなので故障とか破損とかしたとき。

ロボットが予知せぬ動き方やこしょうをしてしまった際の対応。利用者様が逆に不穏になったりしないか…etc

ロボットである限り、使用中の誤作動、故障への不安が大きい。それによって入所者様にケガ等させてしまったら…という不安がある。

どのようなロボットがあるのかわかりませんが、オムツ交換で便失禁を処理している時にマットコール鳴って対応しなければならない、という負担をロボットが軽減できるとはとてもじゃないが思えない。施設の電波状況がすごく悪い(ロボット導入に関係するかどうかはわからないけど)

使用毎にかかる時間(1回30秒でも100回使えば50分!逆に他の業務の負担が増える)

手順の周知(間違った使用方法での事故で施設側の責任が問われる事)

例えばルンバのようにスイッチを入れるだけで掃除を代行してくれて、毎食後に行っている床掃除の業務をなしにできる。というパターンなら明らかにロボットのおかげで負担が減ったことが実感できるが、数字上で効率化されていても、実感に繋がらないロボットは導入はしてほしくないと思います。

不具合で事故がおきないか。

介護ロボットの取扱い方が難しかったり、時間がかかったりすると業務の効率化は求められない。

ちゃんと操作できるか不安。

準備に時間がかかる。

ロボットに対して理解のない利用者に対しての危険性、空きスペースが広くないとダメなのでは？

一人の介助に時間を要すか？

取扱いが簡単なのか？

適正使用方法をしっかりと把握しないと、介助者、利用者ともに大なり小なり事故につながる可能性があるのではないか。

介護支援ロボット（装着型）は使い慣れるまでは時間がかかるのではないかと思います。取扱いを間違えると、事故等のリスクが増えるのではないかと心配です。

人間対ロボットでコミュニケーションを図れるのか不安。

装着タイプの場合、装着することで動きに制限が出たり、重たくて動きにくいようであれば使用は難しいと思う。装着に時間を要するものも。

間違った操作方法で入所者にケガをさせてしまわないか心配。

自分に使いこなせるのか？など不安がありますが、介護ロボットを使うことで職員の負担が減るといいな～と期待しています。

マッスルスーツ：重さや大きさ、違和感が気になります。従来型だと着用している時間はあるかどうかです。

移乗サポート：ロボットと職員2人介助みたいな感じで出来そうですが利用者のロボット使う不安や抵抗感はあるのでしょうか？と思いました。

資料しか見ていないのでイメージがしにくく、行ってみないと分からないと思いました。

実際に使用してみると、実は時間がかかりすぎたり(使用前、使用中)、逆に利用者の負担になるのではないかと思います。

その人その人に合わせた介助ができるのか？

事故がおきないか。

入所者が受け入れてくれるのか。

男女、身長差、体格差に左右されるロボットなら不要。

使用するに当たり、時間がかかる、場所をとる、重い、というのも困る。

入所者からの反応や、入所者が慣れるまでが少し不安かなと思った。事故等が増えるかどうか。

学生時代に介護ロボットを体験したが(体に装着し、上体を上げるのを手伝う機械)、5kg～10kg 程の重さがあり、又上体を上げる力が強く逆に体に負担を感じた。10年近く前なので進化している事を願いたい。

デメリットや不安はありますが… 今はまだイメージがわかずわからない。

装着時に時間がかかるのではないかと思います。

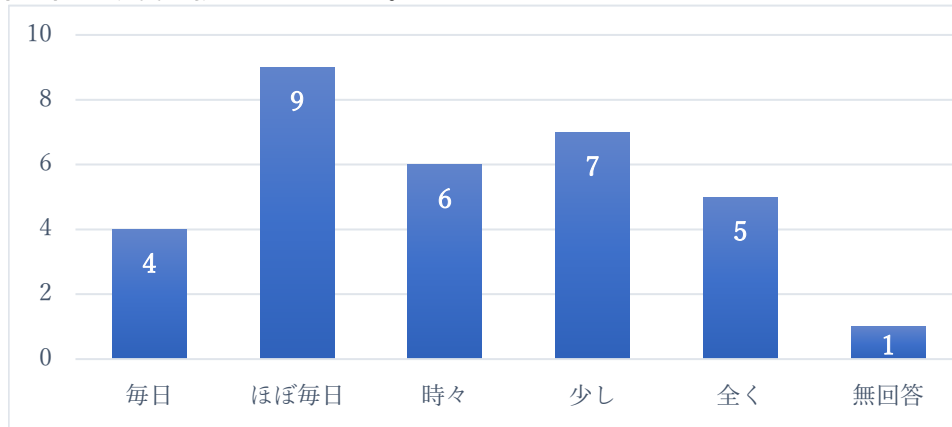
令和4年介護ロボット導入効果検証事業

導入後アンケート 集計結果

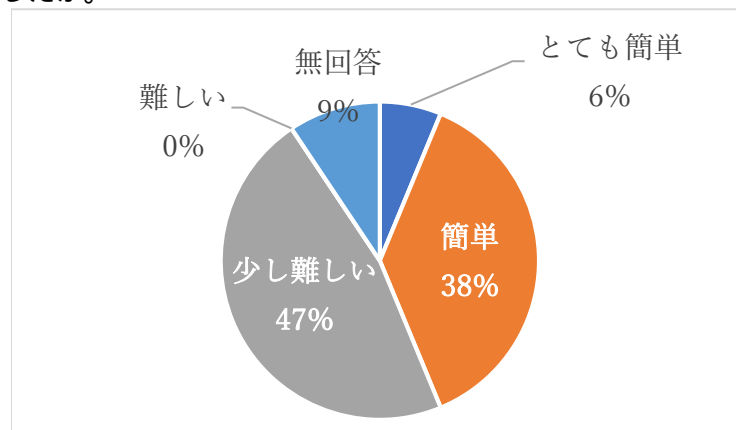
対象：ユートピアつくも 介護職員 32 名

期間：令和5年2月21日～令和5年2月24日

①期間中の使用頻度を教えてください。

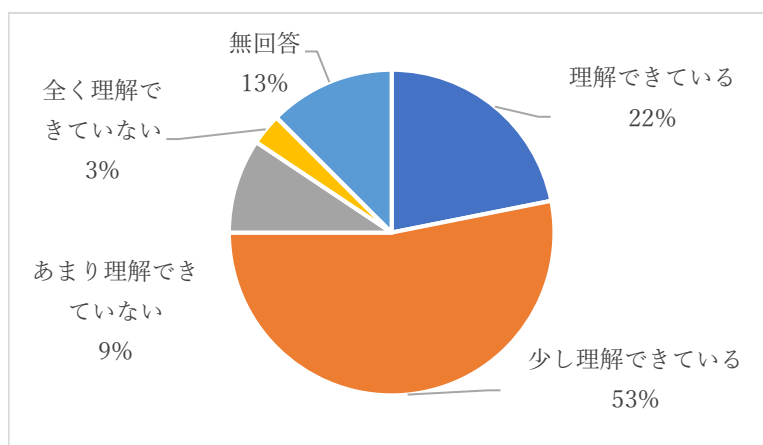


②着脱は容易でしたか。

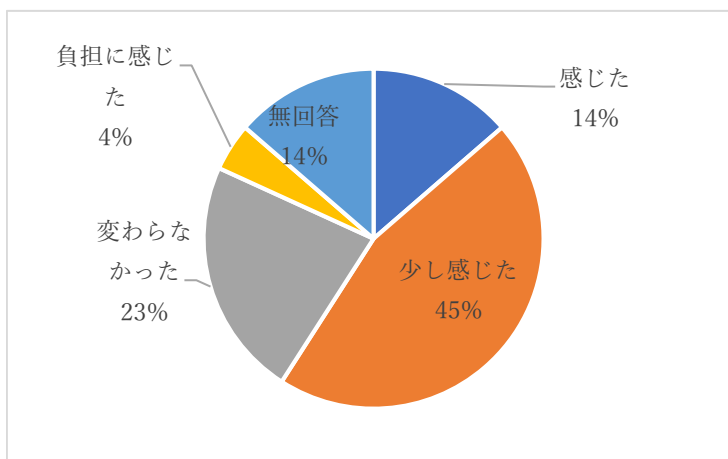


- ・調整するところを触りすぎたのかな？ねじれている所もあり、他の職員に何回か教えてもらいながら装着しました。
- ・胸の部分と足の部分の場所だけ外す時外しているが、少し乱雑に置くとぐちゃぐちゃになっており、正しい状態にするのに時間を要した。（自己責任ではありますが…）
- ・最初は着る時に、腕を入れる部分などが裏返しになったりしただけで正しい装着ができない時がありましたが、方向を憶えれば簡単に装着出来るようになりました。
- ・仕様当初は形状が把握できてなく、ひものねじれや装着にとまどいました。慣れてくれば最初より早く装着できるようになりました。
- ・慣れるまでマジックテープの位置に悩んだ。
- ・ヒザ下に装着する際うまく出来ない事が多く、時間がかかった。短時間に装着出来ると良いかと思いました。慣れれば大丈夫かなとも思います。
- ・最初は戸惑ったが、一度マジックテープで装着する所が分かった後は簡単だった。
- ・図等を見ても着る方法は難しいと感じた。調整して体になじむまでは動き辛く感じた。
- ・慣れるまでが少し難しかったです。
- ・初めは難しいと感じた。
- ・マジックテープが多くて少しややこしい。
- ・一番最初だけわけがわからなかった。

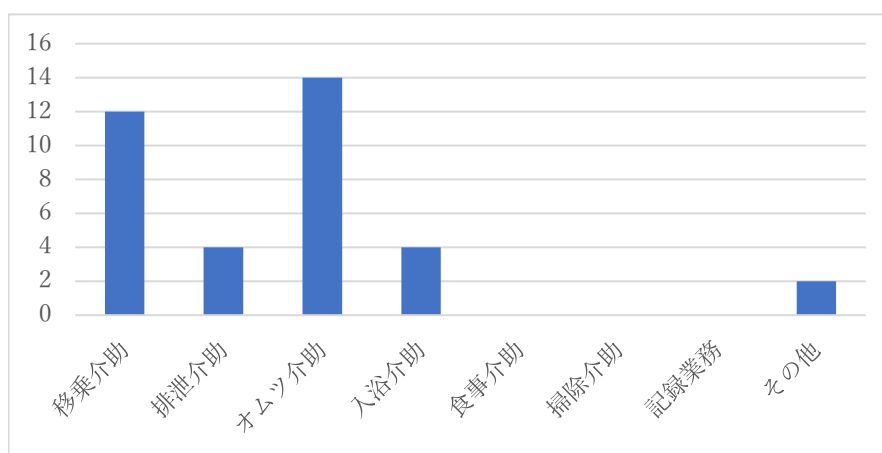
→ラクニエの使い方についてどの程度理解できていますか。



③腰部への負担は軽減したと感じましたか。



→(1.2.を選択した方へ)特にどのような場面で負担軽減を実感しましたか。



詳細は次項

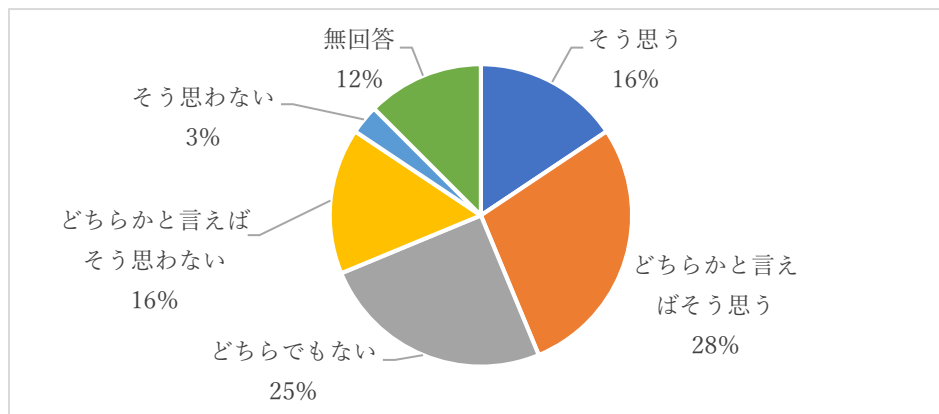
→(1.2.を選択した方へ)特にどのような場面で負担軽減を実感しましたか。(自由記述)

- ・ オムツ交換で前かがみになった時
- ・ 腰を曲げ入所者を抱え、腰を伸ばす時、背中側から引っ張られて助けられているように感じた。
- ・ ベッドから車椅子の移乗、オムツ交換時に負担の軽減を感じました。
個人的にはコルセットよりも好みます。
- ・ 前かがみになった際の腰の痛みが軽減されている気がします。
- ・ 移乗介助 →ベッド車椅子間の移乗時
オムツ介助→オムツ交換時の前かがみになって作業している時。
- ・ 全ての移乗介時、オムツ交換の介助時、前かがみの姿勢が長くなると腰が痛くなるがそれがなかった。夜勤明けの腰痛がいつもより軽減した。
- ・ 夜勤中ずっとつけていると朝の疲れがだいぶ楽になる。
- ・ 全介助の移乗介助以外は全て楽になった。かがむのが楽。
- ・ 元々腰痛はありませんが、オムツ介助時装着していた方が体全体が軽いような気がしました。
- ・ 排泄・移乗介助で少し腰を曲げて動作する時(車椅子フットレストの上げ下げ等)に軽く腰がサポートされていると感じた。
- ・ オムツ交換時など腰に強いサポートが必要な時はあまり効果なし。腰痛ベルトと併用した。
- ・ 移乗介助→ベッドから車椅子への移乗時。
離床介助→体重の重い入所者様を仰臥位から端座位にする際、G-up 限界まで頭部ギャッチアップしても、そこから更に体を支え端座位にするとき、腰への負担を感じていたが、軽減した。
- オムツ介助→前傾姿勢になって行うことが多く、いつも腰に痛みを感じていたが、痛みが軽減した。
- ・ 使用している時はあまり感じないが、仕事が終わった時に感じる疲れや腰痛があまりない。
- ・ 前かがみになるだけでも痛みが軽減されていた。
- ・ 移乗介助 →入所者様を抱える際、腰を低く下ろした時。移乗する際のふんばり(?)下肢に力を入れた際。
- オムツ介助→背中から足にかけて裏側をサポートしてくれているので、ベッドをのぞくような姿勢になった際に負担軽減を感じた。"
- ・ 移乗介助の時。ベッド移乗がいつもより楽だった。
- ・ ベッド車椅子の移乗時 ・ 前傾で作業する時に効果を感じた。

→(4.を選択した方へ)どのような負担を感じましたか。(自由記述)

- ・ 3 回ほどオムツ交換時に使用したが、普段よりむしろ腰が痛かった。

④今後も継続して使用したいと思いますか。



⑤ラクニエの気になった点や改善すべき点がございましたらご記入ください。

・使用をためらった理由が二つあります。

①膝部分を締めることでズボンがみっともなく感じた。

②胸部分を締めることで胸が強調されているようでいやだった。

・着用中や外した後に、少し膝に痛みを感じた。

・装着中の違和感が気になった(特に膝)

・装着方法が少し違う(肩の位置、ねじれ)人もいて、正しく装着するのは難しいかも。"

・膝に負担がくる時があったので膝が悪いと不向きかなと思った。

→膝に負担がなければ良い。

・オムツ交換は腰を曲げる時間が長くて日により腰がダルクなる事がありました。

ラクニエを装着してみても余り変わらなかったです。

・長時間使用していると体がダルくなる時があり、外しながら行いました。

・体がビシットなった感じはしました(装着時)。

・胸の前で止めるボタンのベルトが女性には気になると思う。

・膝下のベルトを長ズボンの上から着けるとズボンが引っ張られてとても気になる。"

・入浴介助で使用するとうぬれてしまい使えなくなる点。

・膝に問題がある方は使用できないということで、膝が悪い方でも使用できる仕様のものがあるといいと思います。

・下肢への負担がもう少しすくなければよいと思いました。

・一度つけてみましたが、私自身膝部と腰部にコルセットを使用していますので、扱いにくく、一度も使用していません。

・見ため(制服内なら問題ないか)

・膝の負担は強そう。

- ・長く使用すると骨格に変形をきたしそう。
- ・女性はムネが当たってしまうので、もう少しすく、肌に直接つけられるタイプだと良い。
- ・体型に合ったものが欲しい。
- ・腰部より膝への負担を強く感じた。
- ・なし。馴染みすぎて私の体の一部である。
- ・移乗介助時腕を通す部分を入所者の方が引っ張ったり、手を入れたり刷ることが多くあった。胸のベルトの部分も皮膚を傷つけたりしないか不安な面があった。
- ・膝下をしめつけられる感が強くあった。
- ・初めて装着した後はずした時に今までに感じたことのないような疲労感を感じたが、その後は慣れてきました。
- ・自分は半ズボンで業務しているからか、膝下を固定するベルトが痛い。時々スネ毛が抜ける。皮膚がこすれる。
- ・しめつけた部分がどうしてもかゆくなり、がまんできませんでした。
- ・風呂介助時ぬれる事が嫌。
- ・夏の暑い時に使用していただけるか。
- ・マジックテープがすぐ悪くなりそう。"
- ・特にないです。
- ・下肢(膝関節部分)のテープ部分がフィットしなくてゆるめに装着しないと圧迫され痛い。
- ・腰部のベルト部をもう少し太くしたり、クッション性のある厚めの生地とかついていたらさらに負担軽減になったりしないだろうかと思った。
- ・このままでいいと思う。
- ・特になし。
- ・膝を痛めている時や常に痛みがある人が使用すると半月板?をおさえられている感じでより痛みが増した。
- ・膝下で止めない工夫が出来れば変えてほしい。

令和4年度 介護ロボット導入効果検証事業

社会福祉法人九十九会
特別養護老人ホームユートピアつくも

人員配置

- 施設長 1名
- 医師 0.1名
- 看護師 7名
- 介護職員 37.7名
- 介護支援専門員・計画作成担当者 1名
- 生活相談員 2名
- 機能訓練指導員（PT） 1名
- 栄養士 1名

施設紹介

- 特別養護老人ホームユートピアつくも

<所在地>

名古屋市中区

<事業内容>

従来型の特養 入所90名 他、短期入所あり

<平均介護度>

4.1（R4.4）

課題確認

- 職員比率

職員平均年齢が42.8才

平均勤続年数10年11か月

30-40代少なく、50-60代中心（常勤職員？）

ベテラン職員の体調不安を理由に離職が後を絶たない。

- 環境

布おむつ使用など慣れた方法からの脱却も図れないなど、環境改善に向けた取り組みがうまくいっていない

介護ロボット導入の期待

<負担軽減・職場環境改善について>

腰痛など体調に不安を抱えながら介助する職員の
身体的・精神的負担の軽減

→離職への歯止めにつなげ、年配職員も活躍で
きる職場へ

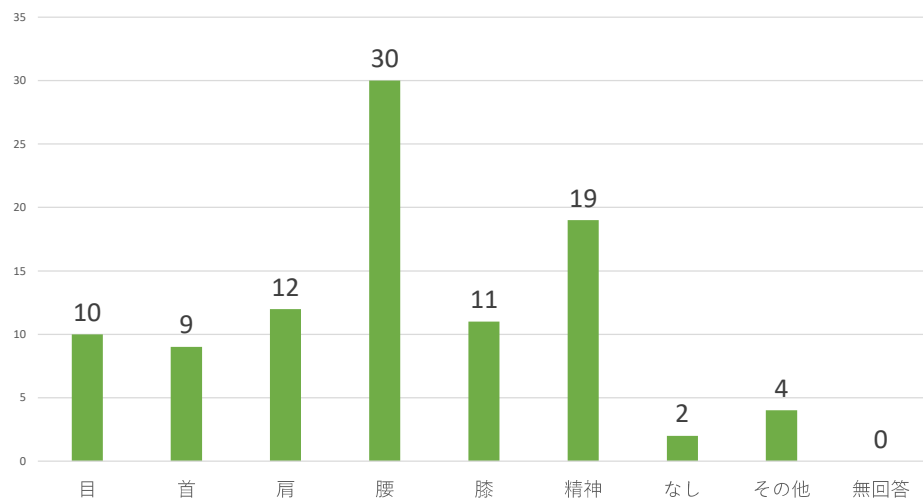
<介護サービス質の向上>

ご利用者の職員への遠慮をなくして、精神的な
負担軽減

業務改善によって生まれた時間を入所者サービ
スの向上に使う

導入前実態調査アンケート結果 (n = 38)

業務中の疲労・負担を感じる部位

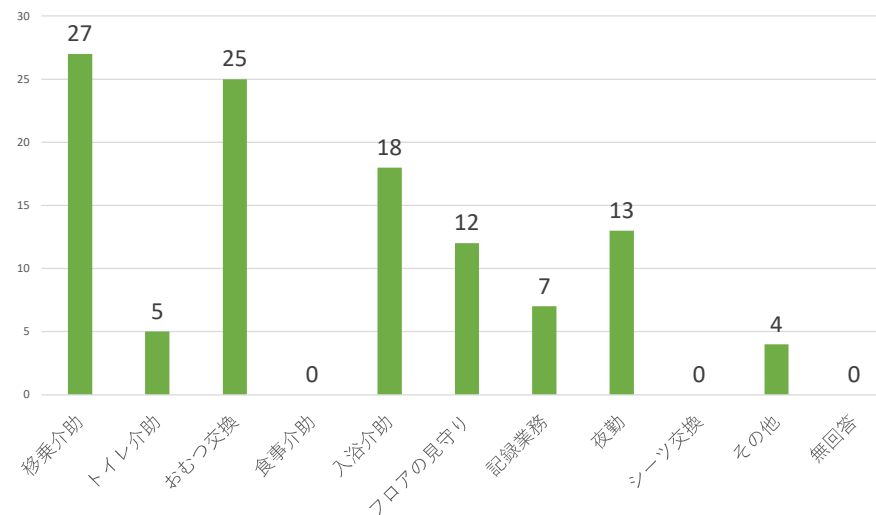


導入の準備

令和4年6月30日	課題整理の打ち合わせ
令和4年7月12～20日	介護ロボット導入前 実態調査アンケート実施
令和4年11月18日	ラクニエのデモ (2週間)
令和4年12月8日	介護職員腰痛アンケート実施
令和5年1月20日	導入効果検証協力事業所 意見交換会参加
令和5年1月末	ラクニエ導入(3週間)
令和5年2月21～24日	導入後アンケート調査実施
令和5年3月9日	導入後ワークショップ
令和5年3月15日	効果検証報告

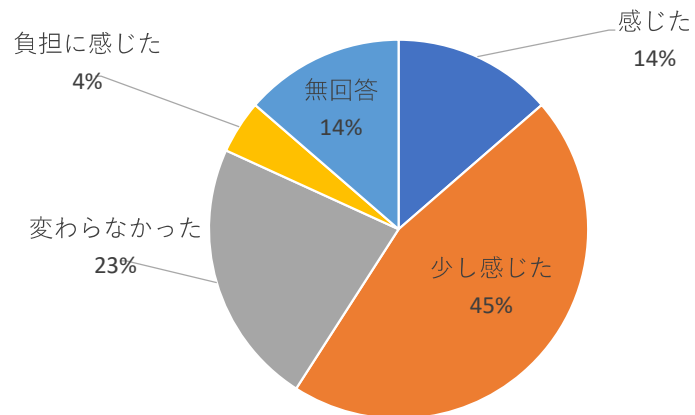
導入前実態調査アンケート結果

疲労・負担を感じる業務 (複数回答)



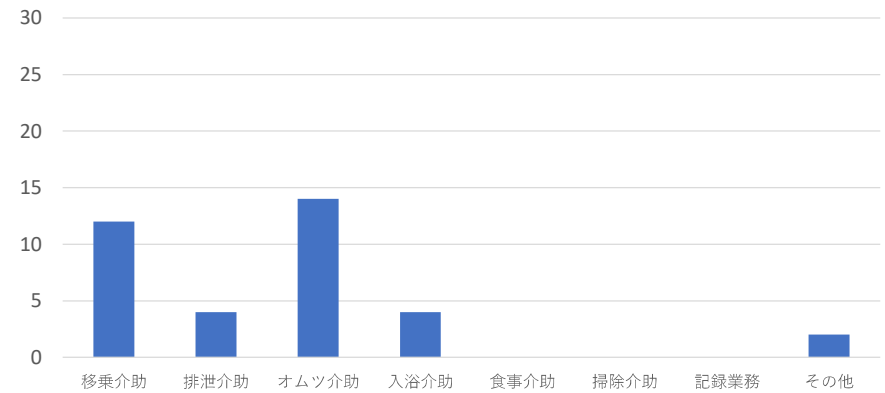
導入後アンケート結果 (n = 32)

腰部への負担は軽減したと感じましたか。



導入後アンケート結果

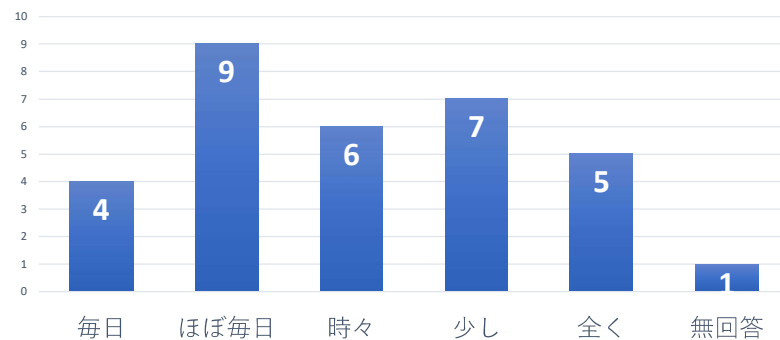
→(1.2.を選択した方へ)特にどのような場面で負担軽減を実感しましたか(複数回答)



・前かがみ姿勢 → オムツ交換、車椅子フットサポートの上げ下げ 移乗介助時
 ・自身の上体を起こす時 → ベッドから起き上がり
 ・夜勤明け・仕事終わりの疲労感
 など

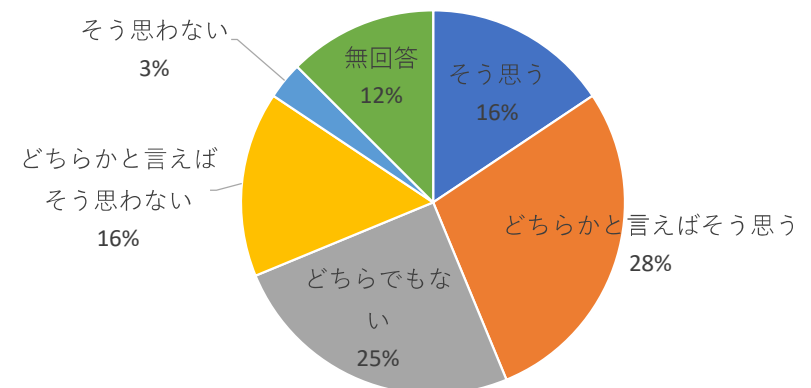
導入後アンケート結果

期間中の使用頻度を教えてください。



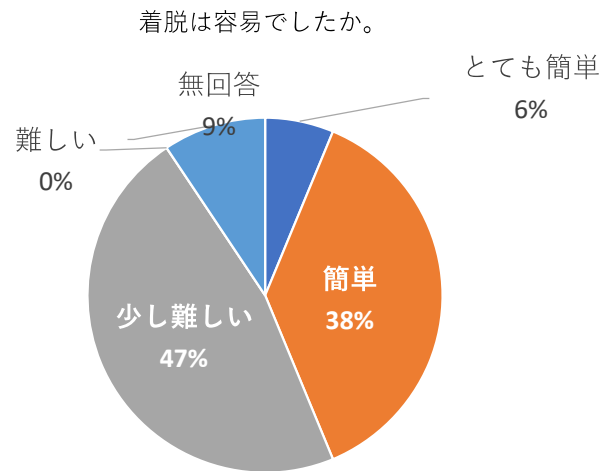
導入後アンケート結果

今後も継続して使用したいと思いますか。

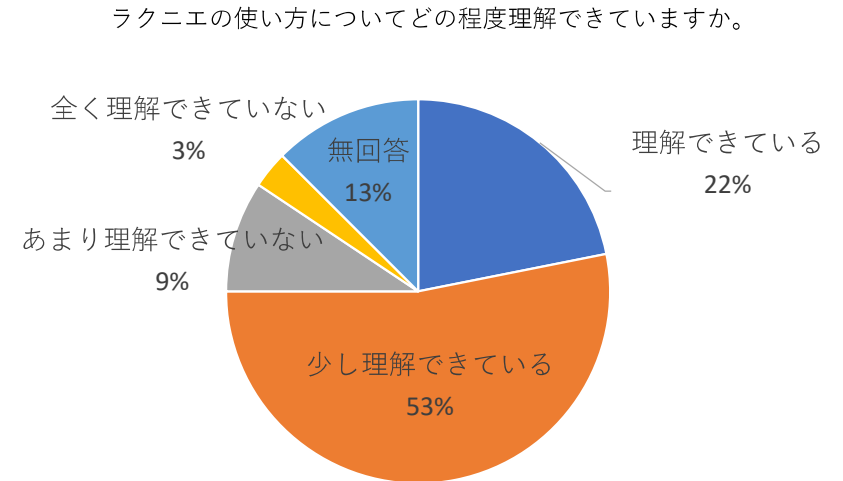


約半分が継続使用を望んでいる。
 「どちらでもない」1/4
 3週間という装着に慣れが必要な段階でもある為、今後、使用に慣れた段階での聴取での確認が有効かと考える。

導入後アンケート結果



導入後アンケート結果



- ・ 介護ロボットの使用について職員間で話って確認して進めている。
(操作方法、利用場面、利用者との適合など)

まとめ

今後の課題

- ・ 機器装着に慣れ、使用上の不安を解消する
- ・ ラクニエ着用しても負担軽減できない場面の対策の検討・実施

期待

<介護負担軽減の観点から>

- ・ 腰痛など体調に不安を抱えながら介助する職員の身体的・精神的負担の軽減
- ・ 離職への歯止めにつなげ、職場定着を目指す

<利用者サービスの向上から>

- ・ ご利用者の職員への遠慮をなくして、精神的な負担軽減
- ・ 業務改善によって生まれた時間を入所者サービスの向上に使う

<職場の環境改善の観点から>

- ・ 長年職場を支えてきた年配職員も今後も長く安心して活躍できる職場環境を目指す

使用の様子

・写真



介護ロボット導入効果検証協力事業所募集要項

名古屋市健康福祉局高齢福祉部介護保険課

1 はじめに

本市では、介護従業者の負担軽減や定着、介護の質の向上を目的として、介護ロボットの活用を推進するため、令和元年10月より「介護ロボット等活用推進事業」（委託事業）を実施しております。

この事業の一環として、介護保険事業所における介護ロボットの導入効果を検証し、その結果を今後の介護ロボットの普及や活用推進に活かしていくための介護ロボット導入効果検証を行います。

そのため、当該効果検証にご協力いただく介護保険事業所を募集します。

なお、介護ロボット等活用推進事業は「なごや福祉用具プラザ」のもとで行います。

「なごや福祉用具プラザ」について

平成9年事業開始。介護ロボットを含む約1000点の福祉用具の展示、福祉用具や住宅改修に関する無料相談、実習・研修を通じた介護知識・技術の普及を行っています。

また、平成25年から29年に国の介護ロボット普及モデル事業を受託しています。

2 募集対象事業所

(1) 募集数

2事業所

(2) 対象事業所

名古屋市内で運営する以下の事業所で、介護ロボットの導入を検討しており、効果検証に協力できる事業所。

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設、
特定施設入居者生活介護事業所、認知症高齢者グループホーム

※令和4年4月1日時点で開設後3年以上経過していること。

3 応募資格

(1) 名古屋市内にある「2 募集対象事業所」を運営している法人

(2) 介護保険法に規定する欠格事由等に該当しないこと

- ・介護保険法に規定する欠格事由に該当する場合は応募できません。
- ・応募者が、名古屋市暴力団排除条例（平成24年名古屋市条例第19号）第2条第2号に規定する暴力団員等（暴力団員と密接な関係を有する者を含む）、名古屋市が行う事務及び事業からの排除対象者であることが判明した場合は、応募を無効とします。また、暴力団員等であるかどうかを愛知県警察本部長に対し照会することがあります。

(3) 介護保険法及び老人福祉法の規定を遵守していること

介護保険法を始め関係する省令等に定められた基準を満たしていることが必要です。

また、下記に該当する法人（その法人と代表取締役を同一人物とする法人も含む）は応募できません。

- ・応募書類提出時において、介護保険法及び老人福祉法その他法令に明確に違反していると認められる法人
- ・その他、市長が不適切と認める法人

(4) 適正な事業計画の策定

- ・介護ロボットの導入効果検証を行う事業所において当該効果検証に協力可能な体制が整っていることを確認の上ご応募ください。
- ・効果検証の実施にあたり、利用者のプライバシー保護や事故防止の対策をお願いします。

4 効果検証の内容

(1) 介護ロボットの種類

効果検証に使用する介護ロボットは、以下の種別のものでします。要件を満たす介護ロボットを協力事業所において用意していただきます。

どのような介護ロボットを使用するのかは、協力事業所として採択された後、なごや福祉用具プラザと調整の上、事業所の課題整理を踏まえて決定していただきます。

移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援

以下のアからウの全てを満たすロボットを対象とします。

ア 目的要件

日常生活支援における、移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援の場面において使用され、介護従事者の負担軽減効果のあるものであること。

イ 技術的要件

次の（ア）又は（イ）のいずれかを満たすロボットであること

（ア） センサー等により外界や自己の状況を認識し、これによって得られた情報を解析し、その結果に応じた動作を行うロボットであること

（イ） 経済産業省が行う「ロボット介護機器開発・導入促進事業」又は「ロボット介護機器開発・標準化事業」において採択された介護ロボットであること

ウ 市場的要件

販売価格が公表されており、一般に購入又はリースできる状態にあること。

(2) 介護ロボットの購入費用の補助について

協力事業所として採択された後に、効果検証に使用する介護ロボットについて、新たに購入する場合は、購入費用に対する補助があります。（他の補助金との重複は不可）

ア 補助対象者 : 協力事業所を運営する法人

イ 補助額 : 購入費用の4分の3に相当する額
(ただし、補助上限額は、1事業所あたり1,000千円)

ウ 補助対象経費: 効果検証に使用する介護ロボットの購入費用
当該補助金を活用し複数台の購入も可能ですが、効果検証に使用する台数のみとします。

エ その他

- ・効果検証に使用する介護ロボットの機種については、なごや福祉用具プラザと調整

の上決定してください。

- ・効果検証に使用する介護ロボットは購入を原則としますが、やむを得ずリースにより新たに導入を行う場合は、3年以上のリース契約を締結するものとし、この場合補助金の対象となる経費は、初年度（申請した年度の年度末まで）に発生したリース料のみとします。
- ・補助金の交付にあたっては、効果検証への協力が条件です。
- ・補助金の交付にあたっては、協力事業所に選定された後、別途手続きが必要です。
- ・効果検証を途中で中止した場合やリースの3年契約を途中で解約した場合には交付した補助金を返還していただく場合があります。

（３）効果検証の実施期間

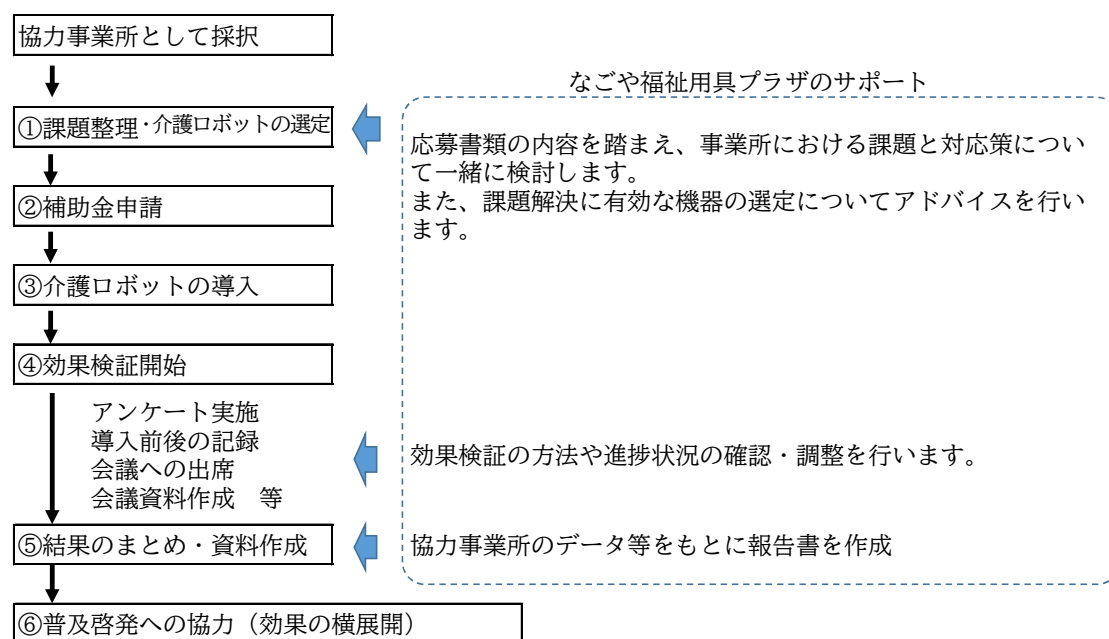
令和4年6月から令和5年3月末まで

※セミナーやフェスタにおける効果検証の発表等の普及啓発については、令和5年度以降にご協力いただくことになります。

（４）効果検証の実施

効果検証の実施にあたっては、事業所の課題分析や機種を選定、導入後の効果検証業務について、なごや福祉用具プラザの専門職（リハビリテーション工学技師、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師等）が一体となって協力事業所をサポートします。

<効果検証の流れ イメージ>



（５）協力事業所における協力内容

事業所にご協力いただく内容は以下のとおりです。あらかじめご了承の上ご応募ください。
なお、効果検証の実施にあたっては、なごや福祉用具プラザと相談・調整しながら実施をお願いします。（会議出席に関する謝礼等の協力金あり）

ア 事業所に適した介護ロボットの導入

なごや福祉用具プラザと調整の上、事業所における課題を踏まえて業務改善の目標を設定し、介護ロボットを選定・導入する。

イ 職員への負担を分析するために必要なヒアリング・アンケート等への協力 （介護ロボット使用前、使用后等随時実施）

- ウ 介護ロボットを使用する前後の介護サービスの提供の記録
- エ 介護ロボットを使用しての介護サービスの提供に伴う安全管理、利用者対応その他の事務（当該検証の対象となる利用者及びその家族の同意を書面で取得）
- オ 利用者の自立度分析への協力
- カ 効果検証のための会議への出席、資料作成（会議3回程度、報告書等の作成）
- キ 他事業所・外部からの取材や見学等への対応
- ク 本市及びなごや福祉用具プラザが実施するセミナーやフォーラム等での効果検証の発表（1～2回程度）
- ケ その他、効果検証により得られた成果の普及・啓発に係る事業への協力

5 応募方法

応募される場合は、市へ事前相談のうえ、別にお示しする応募書類を提出してください。

○事前相談

応募書類の作成にあたって、事前に担当課へご連絡ください。

応募にあたっての留意事項や補助金の手続き、効果検証を実施する場合の留意事項等をご確認のうえ、ご応募をお願いします。

○応募書類の提出期限

令和4年4月28日（木）17時まで ※郵送の場合は4月28日必着

【事前相談及び書類提出先】

名古屋市役所 健康福祉局高齢福祉部介護保険課施設指定係（p5問い合わせ先と同じ）
（事前相談又は書類の持参等で来庁される場合は、来庁日時の予約をお願いします。）

※書類は、提出期限までに不足、内容誤り等がないように担当課職員と十分打合せをし、最終確定した書類を提出してください。

※応募書類は、提出期限を過ぎた場合においては、いかなる理由であっても受理いたしません。

6 今後の日程について（予定）

区 分	事 項
令和4年3月28日	○募集開始
令和4年4月28日	○「応募書類」の提出期限（法人→市） ※提出までに市へ事前相談を行う
5月	○書類審査・ヒアリング ○評価委員より意見聴取 ○協力事業所の選定
6月	○選定結果の通知（市→法人）
6月～	○効果検証開始

※上記日程については、事情により変更になることがあります。

7 選定方法と結果について

(1) 審査

提出いただいた応募書類を審査させていただくほか、必要に応じてヒアリングを行います。

(2) 選定

選定基準の概要についてはp 6「介護ロボット導入効果検証協力事業所選定基準」のとおりです。また、最終的な選定は評価委員への意見聴取の上、行います。

(3) 選定結果の通知

選定結果につきましては、採択あるいは不採択にかかわらず「令和4年6月初旬」をめどに各法人あて通知する予定です。

8 留意事項

- 提出いただいた書類に虚偽等がある場合には、応募自体を無効とさせていただきます。また選定後において虚偽等が判明した場合にも採択を無効とさせていただきます。
- 応募書類提出以降の応募書類の内容の変更は認めません。
- 本市が必要と判断した場合は、本市からの書類の追加及び補正を求めることがあります。
- 応募に関して必要な費用は応募者の負担とします。
- 提出書類については理由の如何に関わらず、返却いたしません。
- 提出書類については、名古屋市情報公開条例（平成12年条例第65号）に基づく開示の対象となることもありますのでご留意願います。
- 応募いただいた後、あるいは、採択後にやむを得ない事由等で辞退する場合には、辞退理由を明記の上、辞退届（任意様式）を提出してください。
- 事前相談及び応募書類提出は、運営法人の方の同席をお願いします。代行申請は不可とします。
- 今回の募集に関しましては、当課の指導に従い手続き等を行っていただきます。また、応募いただいた計画が採択された場合についても同様です。
- 採択された場合は、提出いただいた応募書類の写しをなごや福祉用具プラザへ提供します。

9 問い合わせ先

ご不明な点等は、p 7 質問送付票により令和4年4月18日までにFAXでお問い合わせください。後日回答いたします。

応募書類の提出は、次までお願いします。ご来庁時には、必ず事前に下記問い合わせ先まで予約をお願いします。

（問い合わせ・書類提出先）

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

名古屋市健康福祉局高齢福祉部介護保険課施設指定係（市役所本庁舎2階）

電話：052（972）2539 FAX：052（972）4147

介護ロボット導入効果検証協力事業所選定基準

	評価項目	評価内容	配点
①	効果検証の適性	・ 職員の負担軽減及び定着支援のための現在の取り組み ・ 現在事業所が抱える課題と介護ロボットの効果に対する適性	30
②	効果検証の実施体制	・ 効果検証を行うための人員体制 ・ 効果検証を行うにあたっての職員への配慮	20
合計			50

※本事業に取り組むべき体制が整っていないと判断される場合には、評価点数に関わらず採択はできません。

※合計点が20点未満の場合は採択されません。

※同点の場合は、「①効果検証の適性」の点数の高い方を優先します。

名古屋市健康福祉局高齢福祉部
介護保険課施設指定係担当者 宛

FAX : 052-972-4147

TEL : 052-972-2539

質問送付票

(介護ロボット導入効果検証協力事業所公募)

送信日	令和4年 月 日 ()
送信元	法人名 : 所在地 : TEL : FAX : 担当者 :
件名	
質問	

令和4年4月18日(月)まで質問を受け付けます。